

Q&A ご飯を用意し始めると興奮して吠えます。

吠えてる間はあげてはいけないと聞いたのであげないようにしていますが、ずっと吠えます。このままでいつか吠えなくなるのでしょうか？



A.おっしゃるように吠えているときにご飯を与えてしまうとご飯のときにいつも吠えるようになってしまいます。吠えるのが止んだ時にご飯を与えることで吠える時間が短くなるかもしれません。

それでもだめなら、「吠えると食事はもらえない」ということを教える必要があります。

1つの方法として吠えたら食事を持って部屋から出て行きます。

吠え出したらすぐに「あっ」と言って部屋から出て行き10秒ぐらいでもどってきて、

「おすわり」などの合図を出します。吠えずに合図に従ったらすぐに食事を与えるようにしてください。合図に従わず再び吠え始めたらすぐに「あっ」と言ってでていきます。

繰り返し練習することが大事なので、1回分の食事を2, 3回に分けて練習するのもよいでしょう。タイミングよく行えばじきに大人しくおすわりをして食事を待つようになるでしょう。

Q&A 食事中に近づくとうなります。

ご飯を食べ始めると身体に触れただけでうなります。最初は食事を取り上げてしかってましたが、余計に興奮します。最近では噛みつく勢いです。良い方法はないのでしょうか？

A.自分の食事を取られまいとする犬のごく自然な反応です。

それに対して叱ったり、食事を取り上げようとする犬から見ると飼い主が食べ物を取ると教えているのと同じです。教えなければいけないのは、飼い主は食べ物を奪い合う存在ではないということです。ですから、食事を取り上げたり、食事中にさわるとはやめましょう。食事を何回かに分けて少しずつ追加するか、食べているときに食器に好物をいれるようにします。追加するときに噛まれる危険性があれば、お玉のようなものを追加するか、少し離れたところから好物を投げ入れるようにします。

食事中に近づいて落ち着いていられるようであれば直接手で入れてあげるようにします。



Q&A 誰かがそばにいないとキュンキュン鳴きます。

家に来て 3 日目なのですが、誰かがいると安心するようですが、少しでも誰も見えなくなると鳴きだすので、寝る時も一緒の部屋で寝ています。これから少しは留守になることもあるのですが、このまま何も対処せずにいてもいいのでしょうか？



A. 家に来たばかりの子犬は本当の親兄弟、生まれ育った場所から離れて、心も体も不安定な状態になってます。子犬の場合、家に慣れるまでの最初の 1 週間にはできるだけそばにいてあげるようにします。しかしいつまでもべったりいると将来お留守番ができない分離不安の犬になってしまう恐れがあります。子犬が家になれ、元気も食欲も安定し始めたら少しずつ距離を空ける練習が必要です。いきなり長時間一人で過ごさせるのではなくほんの短い時間から少しずつ慣らしていきます。たとえば同じ家の中に居るからとどこでもついてこさせるのではなく子犬を置いて別の部屋に行きすぐに戻ってくるということをくり返します。子犬に飼い主がいなくなっても必ず戻ってくることを教えるためです。別の部屋に行く時には出て行く際に食事やおもちゃ、ガムなどを与えておくといよいでしょう。室内で一人で過ごすことができるようになったら、短いおでかけの慣らしです。

ゴミ出しに行くようなほんの短い時間から少しずつ、何度もくり返して慣らしましょう。

長めのお出かけの前には外出中のいたずらや不安を減らすための工夫が必要です。充分遊ばせて疲れさせすぐにでも眠ってしまうぐらいにしておくこと。いたずらされて困るものは片付けて、食べるのに時間のかかるガムや食べ物、おもちゃなどを与えてでかけるようにしましょう。



Q&A 犬にカットや洋服は必要ですか？

犬の毛をカットしたり、洋服を着せるのはよくないときいたことがあるのですが、本当のところはどうなのでしょう？



A.洋服やカットにはいくつかの意味があります。

1つは飼い主の楽しみのため。

1つは体温調整のためです。また室内に犬の毛が落ちないように着させる人も居ます。

日本には四季がありますので、気温や湿度を考えてカットしたり、洋服を着せることは悪いことではありません。

真冬に短くカットしたり、真夏に洋服を着せられてハーハー言っているのはやめましょう。**特に夏場は注意が必要です。**犬は汗がかけません。犬の毛質によっては洋服の摩擦によって毛玉になったり（トイプードルなど）、蒸れやすくなります。

日頃から定期的なブラッシングで抜け毛を取り除き通気性をよくしてあげるなど犬の立場に立って考えてあげてください。



Q&A 散歩中にバイクを追いかけようとしています。

散歩中車や自転車は追わないのですが、バイクだけ追いかけます。

力が強く、リードを持つのも一苦労です。追わないようにできますか？

A.動くものを追いかけるのは犬の持つ捕食本能によるものです。

くり返すとそれが仕事のように熱心に続けるようになってしまう場合があります。

すぐに対処しましょう。まず散歩にはお腹をすかせて、好物をもって出かけるようにします。犬がそれを見て興奮状態になる前に犬の鼻先に好物をくっつけ、好物に集中させます。視線をバイクではなく飼い主のほうに向け、好物を少しずつ与え続けながら通り過ぎるのを待ちます。追いかけずに通り過ぎることができたら褒めて、残りの好物を与えます。好物を与え終わるタイミングが早すぎると好物を食べるだけ食べてからバイクを追いかけようとする場合がありますので、バイクが通り過ぎてから残りの好物を与えるようにしてください。バイクを見るたびにこれをくり返すと犬はバイクを見たら好物を期待するかのようになり、飼い主を見るようになります。

そうなれば犬がバイクを見て飼い主のほうを見たら褒めて好物を与えるようにします。好物に目もくれずバイクを追いかけようとするのであればより早いタイミングで好物を出すようにしてみてください。犬は1つのことに夢中になると別のものが目に入らなくなる傾向があります。一旦バイクに集中してしまうと食べ物に興味がなくなってしまうのと同様に先に好物に夢中になるとバイクが気にならなくなりますので、バイクで興奮状態になる前にご褒美に集中させることが大切です。

それでも好物に集中しなければ、もっとお腹をすかせるか、よりおいしいご褒美を使いましょう。ご褒美をローストビーフにしたら車に目もくれず食べるようになったという人もいますので、最初はとびきりよいものを使う必要があることもあります。

さらに捕食本能を抑えるだけでなくボール遊びなど適切な方向に向け発散させてあげることも大切です。

リードをひっぱるようなら、ジェントルリーダーやイージーウォークハーネスなどを使うととても楽になると思います。



Q.甘噛みがひどくて困ってます

3 か月の子犬ですが、仕事のため1日10時間ぐらい留守にしています。

撫でようとするだけで噛んできます。無視するといいと聞いたのですが、うまくいきません。噛まれたら無視の繰り返しでまともに接することができません。このまま続けていけば甘噛みはなくなりますか？

A. まず子犬が10時間1人でお留守番することは基本的に無理があることを理解してください。本来は親兄弟と1日中触れ合ったり、噛みあったり、追いかけあったりする時期です。その中でエネルギーを発散させ、強く噛んではいけないことを学びます。1日中留守番にしているとそのような学習の機会もなく、飼い主様が帰宅されるころにはストレスのかたまりになっていると思われる。

1. 当分の間、おもちゃを持ってから近づくようにしましょう

留守番が長ければ帰ってきたらすぐにでもおもちゃで遊ぶ時間を作るのがよいと思います。

おもちゃは玄関のわんちゃんの届かない場所に置いてでかけましょう。

家に帰ったらすぐにおもちゃでしばらく遊び、発散させた上で、噛んできたらすぐに離れて、本来家に帰ってきてしなければならないこと（たとえば着替えなど）をします。こうすることで発散させながらも噛んだら飼い主さんに相手にしてもらえないことを教えます。正しく行えば1～2週間の内に咬む頻度が急激に減ってきます。



2. しっかり発散させてあげましょう

自分のやりたいことは手早く済ませ、できるだけ子犬と関わる時間を作ってください。引っ張りっこだけでなく、お散歩やボール遊びなどでエネルギー発散を心がけると飼い主を咬む頻度を減らすことができます。また飼い主様がお風呂に入るときなど、かまってあげられないときには、噛むおもちゃやビジーバディなど暇つぶしになるものを与えてください。

とにかくしてほしくないことをしないように、どんどんやることを与えてください。

かまってあげられる時間が少ない分、お出かけ前にはしっかり遊び、退屈しのぎのコングやビジーバディ、ガムなどを与えて出かけましょう。また問題が改善した後も、帰宅

後はしっかりおもちゃを使って遊ぶこと、休日はたっぷり遊んであげてを忘れないで下さい。



3. おだやかなふれあいの時間をつくりましょう

子犬がしっかり遊んだ後の疲れた時間帯を見計らってやさしくなでてあげる時間をつくります。こうして咬むこととは違う、人間とのおだやかな触れ合い方を教えてあげましょう。

やがて子犬は飼い主に撫でられる気持ちよさを学び、スキンシップを楽しむようになります。



4. パピークラス、子犬の幼稚園をすすめます

もしくは同じ年頃の子犬と遊ばせたり、遊び好きの成犬と遊ばせると人への甘咬みを減らし、咬み加減を学ばせるのにとっても効果的です。同時に犬同士のコミュニケーション方法を学ばせる大変よいことです。

長時間の留守番は成長期の子犬に必要な社会化を含む大切な教育の機会を奪うこととなります。子犬の幼稚園やペットシッターなどをりようできるようにであればおすすめします。

子犬の間に適切な教育をしておくことで、後々大きな違いが生まれますのでかけた費用は決して無駄にはなりません。



Q. 歩いている時に急に走ってきて足首に噛みつきます。

A. 動きに反応して追いかけて、噛みついたりするのは捕食本能によるものです。

わんちゃんを目線で見ると足は人の体の一部というよりも目の前で動く獲物のようにみえて噛みつきたくなるのでしょう。子犬の時期にこのような行動を定着させないように注意が必要です。

たとえばわんちゃんトリミングにいてあなたが部屋から出て行こうとして、歩き始めたときに後ろから追いかけてきて足首に噛みつくのであれば、子犬が追いかけてきたら咬まれる前に立ち止まります。そして子犬の方を見ながらゆっくりと出て行くようにしてください。

それでも追いかけて来てしまう場合には当面はご褒美やおもちゃなどを反対側に投げ、そちらに気をそらせてから出て行くようにします。あるいはひも付きのボールなどを持ち歩きそちらに気をそらせて足首を咬ませないようにしてもよいでしょう。

このようにして咬まれる状況を避けつつドアの近くで「おすわり、まで」のトレーニングを行いましょう。「おすわり、まで」の合図を出して、ドアのそばまでいき、ドアを出る時に褒め、「OK」の言葉で解除してご褒美を投げて与えるようにします。このようにして動く人の足首に噛みつくことを我慢することを教えます。上手にできるようになったら部屋から出て行くときに使いましょう。

いっしょに部屋にいるときにズボンのすそなどに噛みつく場合は咬んだら「あっ」と言って部屋を出て行くようにします。この際、子犬がズボンを放さない場合は、引っ張らずに立ち止まります。それでも放さなければ、咬んでいない側の足で床を叩くなどして大きな音をたて子犬が驚いてズボンを放した瞬間に部屋からでていくようにしましょう。

そして何よりも大切なことは子犬の自然な捕食本能からくる遊び心くを満たしてあげることです。おもちゃを使って追いかけてさせたり、引っ張りっこをするなど毎日しっかり遊ぶ時間を作りましょう。



Q. 散歩に行くと足にじゃれつきます。

最近、散歩に行けるようになったのですが、飛びついたり、足の周りをまわってリードが足にからまったり、落ち着きがありません。このまま何もしなくても普通に散歩できるようになるのでしょうか？

A. 若くエネルギーレベルの高い犬は特に散歩の初めは興奮状態となります。

興奮状態の上にリードに繋がれ思うように動けないフラストレーションもあり、リードで動ける範囲でいろいろなことをします。動いているものを追いかけて咬みつくのは捕食本能によるものですが、犬種によってはこの追いかけて咬む本能が非常に強い場合があります。

リードで繋がれた状態で唯一咬むことができるのは飼い主の手足やリードであるため、しばしばこのような問題が起きます。しかしこれを続けていると将来別の犬を見て興奮した時など、リードで相手に近づけないと八つ当たりのように飼い主に向かって飛びついたり咬んだりするような問題が起こる場合もあります。

散歩に行く際には紐付きのボールや引っぱりっこのおもちゃなどを持ち歩きそちらを咬ませて足やズボンをかまれないようにしましょう。これはリードを咬んでしまう場合も有効です。今はまだ道を歩くことも遊びになっているかもしれませんが、公園などの目的地をつくりそこで楽しく遊ぶ習慣を作ればやがて公園まで一目散に行くようになるでしょう。



Q. 人が好きで飛びつきます。

家でも外でも人を見つけると飛びつきます。飛びつかないように教えたいのですがどうすればいいですか？

A. 飛びつく癖がつくと泥のついた足で相手の洋服を汚してしまったり、子どもやお年寄りであれば相手を倒してしまったりする危険性もあります。

子犬の時期から飛びつかずに挨拶ができるよう練習しておきましょう。

家で飛びついた時には背を向けるよう家族全員でルールを決めておきます。

落ち着いておすわりをしたらなであげるようにしましょう。

外出先であった人には最初から飛びつかないようにリードでコントロールします。

触ってもらう場合にはリードを短い位置で踏むことによって飛びつかなくしておきます。

犬がおすわりをしてから人に触ってもらうようにしましょう。

Q. 散歩に出しても震えています。抱っこで散歩に行っているのですが、固まって一步も動けません。楽しく散歩にいけるようになるのでしょうか？

A. 初めて地面に降りた小さな子犬には車も人も怪物のように見えるかもしれません。十分に時間をかけて慣らしてあげる必要があります。

まずはお腹を空かせ、好物を持ってゆっくりとお散歩に出かけましょう。

最初は公園などの静かな場所でベンチなどに座り、やさしく撫でて落ち着かせます。

落ち着いてきたら好物が食べられるかどうかみてみましょう。

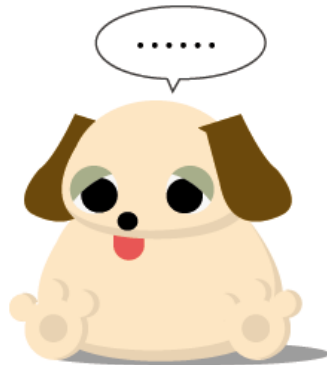
食べられないなら抱っこのままで音楽を聞いたり本を読むなどしてのんびり過ごします。

しばらくしてもう一度好物を与えてみてください。食べることができたらそっと地面に下ろしてみましょう。最初は固まっていたりもあせらずに待つあげましょう。

しばらくすると臭いをかいだり、うろうろするかもしれません。

リードが絡まらないように注意しながら探索させてあげてください。

静かな公園が大丈夫になったら次はもう少し賑やかな場所に連れて行き同じように時間をかけて探索させてあげましょう。お散歩で楽しい経験を重ねればやがてお散歩好きになってくれるでしょう。



**Q. 散歩に出ると「おすわり」「ふせ」ができません
家ではできるのに、散歩に行くときできません。なぜでしょうか？
まだおすわりやふせを完全に覚えていないのでしょうか？**

犬は合図を教えられた人や場所、そのときの状況と関連付けて覚えていきます。場所や人が違ったり、状況が変わったりするとできなくなってしまうことはよくあることです。おっしゃるように家でできるようになっても完全に覚えたとは言えず、公園でさせたかったら公園での練習が必要です。さまざまな場所や状況で繰り返し練習することでどこでもしてほしい時にできるようになるでしょう。

Q. ひっぱりを直す方法がありますか。

散歩に行くと自分の行きたい方向へ引っばったり、そうかと思えば道路で動かなくなってしまったりします。やはり犬が行きたい方向へついていくのはよくないでしょうか？

A. 犬が行きたい方向についていくことが必ずしも悪いことではありませんが、常に自分に行きたいようにしておくときまざまな問題が起きます。

道路で急に引っばられると危険ですし、犬をどこかに連れて行きたくてもついて来てくれなくなってしまいます。他人に迷惑をかけず、楽しくお散歩をするために急に引っばるのはルール違反、飼い主について歩くとよいことがあることを教えましょう。

具体的には犬が道路で急に何かに突進して引っばった時にはピタッと止まってしまいましょう。リードが緩んだらまた歩き始めます。「急にリードを引っばるのはルール違反だよ」と伝えるのです。また常に横につけて歩く必要はありませんが、犬が苦手な人もいますので道で人とすれ違う際などはリードを短く持ち横につけて歩きましょう。

「ついて」という合図を教え、リードを引っばらずについて歩いている時には褒めてご褒美を与えるようにします。

また犬はにおいを嗅いだ後排泄することが多いので注意が必要です。

排泄してはいけない場所たとえば花壇や、よその玄関先などでは臭いをかがせないようにしましょう。ただし臭いを嗅ぐことは犬にとって大きな楽しみでもあるので、安全で他の人の迷惑にならない場所であればのんびり臭いを嗅がせてあげるとよいでしょう。

このような犬のトレーニング方法は犬のしつけ教室で楽しく学ぶことができますので、

しつけ教室に参加するのもよいでしょう。

引っばり防止のためのジェントルリーダーやイージーウォークハーネスなどの使い方も教えてもらいましょう。



Q. ワクチンが終わるまで家から出してはいけないのですか？

ペットショップで3回目のワクチンが終わるまで散歩はしてはいけないと言われました。それでは色々なものに慣らしやすい社会化期を過ぎてしまうのですが、大丈夫ですか？

子犬が家に慣れ、食欲もあり、いたずらをするほど元気であれば、適切な社会化のためにできるだけ早い時期からまずは抱っこしてお散歩をしてもらうことをおすすめします。

抱っこのお散歩を楽しめるようになれば、不特定多数の犬が集まる場所や伝染病の危険性がある犬との接触を避けながら、またほかの犬の排泄物などに触れたり口にしないよう注意しながら、少しずつ歩いてのお散歩に慣らしてもらうとよいと思います。

もちろん外出するとなれば伝染病に感染するリスクがないわけではありません。

しかし伝染病を予防するために接種するワクチンでさえ、低い確率ではありますが、アレルギーなどの副作用のリスクを伴います。これらのリスクよりもメリットが高いからこそワクチン接種を行うのです。この社会化のためのトレーニングも同じでリスクを上回るメリットがあるのです。



Q. 元気すぎてほかの犬から嫌がられます。

人も犬も大好きで他の犬に近づくと嫌がって逃げられたり、唸ったりされて遊べません。どうしたら他のわんちゃんと仲良くできるでしょうか？

A. 好奇心の強い子犬などは他の犬に会うと挨拶をしようとリードを勢いよくひっぱって相手のほうに突進していきます。飼い主さんはしばしば子犬の進むのに任せて相手に近づけてしまいますがこれはルール違反です。

たとえ子犬に悪気がなくても、いきなり突進してこられると普通の犬は驚いたり、怒ったりします。人間同士であればすれ違った人に近づいて体に触れたりほしくないはずです。

子犬にも道で出会ったすべての人や犬と挨拶できるわけではないことを教える必要があります。

散歩中や犬に会ったらリードを短く持ち、犬の鼻先にご褒美をつけてそれに集中させ、「お友達に会えてよかったね」とやさしく言って通りすぎてから与えましょう。(続きは裏面へ)

もし散歩中によく会う犬であれば仲良くなっていくとよいでしょう。

この際も犬の勝手にさせるのではなく、最初に飼い主同士がコミュニケーションをとることが大切です。「こんにちは。かわいいわんちゃんですね。うちの子は元気すぎて飛びついたりしてしまうかもしれませんが、近づけてもいいですか？」などと聞いてみます。

遊び好きの犬であればいっしょに遊んでくれるかもしれません。

ただし飼い主さんがいいですよと言っても、相手の犬が嫌がっているのであればそれ以上は近づかせないほうがよいでしょう。

このようにして、子犬にはお散歩中に会うすべての犬とあいさつできるわけではないことを納得させ、さらにお散歩でお友達を作るためには回数を重ねて仲良くなるようにしていくとよいでしょう。

人間同士が知り合うときも、道端で初めて会っていきなり肩を組んだりしないはずで。

最初はちょっとした挨拶から始まり、楽しくおしゃべりしたり、食事をしたりしながら少しずつ仲良くなっていくと思います。

犬も同じで時間をかけて親しくなるようにしたほうがうまくいきます。

最初の出会いを犬に任せてしまうと、しばしばけんかになってしまい、その後もその犬と会うたびに吠えてしまうようになります。

特にコミュニケーション技術の未熟な犬では、相手の犬が嫌がるような近づき方をしてしまい、相手に拒否されることが多いのです。

第一印象は非常に強いため、一度喧嘩になってしまうと後で仲良くなることは難しくなります。

できるだけいろいろな犬と仲良くさせたいのであれば、いきなりちかづけるのではなく、少し距離を置いて好物を与えて通り過ぎる。よく会う犬であれば、まず飼い主にあいさつし、近づいてもよいかを聞き、大丈夫なら少し距離を置いて好物を与える。

さらに相手の犬の飼い主さんに許可を得て、一緒に好物を食べさせるといった具合に段階を踏むとよいでしょう。

この際もし相手が攻撃的になったり、怖がったりしてしまった場合には、そのまま別れてしまうと、次に会ったときにも悪い雰囲気になってしまいます。

お互いに悪い印象が残らないように、別れ際に仲直りをさせましょう。

少し距離を置いて「仲直り」と言って、両方の犬に好物を与えます。

与える前には相手の飼い主さんに食べ物を与えてもよいかどうかを確認しましょう。

Q. 以前からいる犬と仲良くできるでしょうか

子犬を迎えて10日になります。家には12歳になるわんちゃんがありますが、顔を合わす程度でまだ遊ばせたりしていません。子犬はすごく遊びたがっています。仲良くさせたいのですが、注意することはありますか？

A. 老犬にとって、やんちゃな子犬と一日中一緒に過ごすことはとても疲れることです。特に老犬が犬との社会化ができておらずほかの犬とコミュニケーションが取れないタイプであれば子犬との生活はストレスの多いものとなるかもしれません。

多くの子犬は悪気はないもののしつこく老犬に近づいて、咬んだり、遊びに誘ったりします。これを防ぐには、あなたが子犬とおもちゃで遊ぶなどしてあらかじめしっかりエネルギーを発散させてから会わせることです。

そのうえで一緒に好物を使ったトレーニングを行ったり、のんびりお散歩に行くなど、楽しい時間をともに過ごすようにしてみてください。

また一日中一緒にさせるのではなく、老犬が眠ったりゆっくりと過ごす時間は別々の部屋で過ごさせるほうがよいでしょう。

あるいは柵などでしきって老犬がのんびりしたいときには子犬の側を離れられるように工夫してください。この際、しばしば老犬を自由にして子犬をケージに閉じ込める方が多いのですが、子犬を長時間ケージに閉じ込めるとストレスが溜り、出した時により興奮して老犬にまわりつきやすくなります。ぜひ子犬には十分なエネルギー発散を心がけてください。



Q. 他の犬を怖がって遊べません。

6カ月のビーグルです。生まれて初めて散歩で会ったわんちゃんに噛まれて以来犬が怖くなり、誰とも仲良くできません。他の犬と仲良くさせたいのですが、もう無理でしょうか？

A. 知らない犬と初めて会ったときに何か怖い思いをしたのかもしれません。

特に感受性の豊かな子犬の時期の初めての経験は、大きな影響力をもちます。

「どうもうちのこは柴犬と仲が悪い」とか「小型犬を見るとけんかを売る」などという印象を持つひとがいますが、このようなケースの多くがその犬種とけんかしたなどのエピソードを持っています。犬がよくない体験をしてしまったときにはできるだけ明るく犬に声をかけ、楽しい雰囲気をつくりましょう。そしてそれがたいしたことではなかったんだと

いう態度を犬に見せましょう。

もちろんそのような経験をしたとしても、その後楽しい経験をする機会を充分与えてあげること、よくない体験を克服することもできますので、あきらめず根気よく取り組んでください。まずは性格の穏やかな犬と触れ合う機会を作り、少しずつ心のリハビリテーションをしてあげましょう。最初はおだやかな犬と怖がらない程度に距離を置いて好物を与えたり、お散歩に行ったり、おもちゃで別々に遊ばせたりします。

少しずつ慣れてくれば、ちかくで好物を与えたり、お散歩コースを並んで歩く、一緒におもちゃで遊ぶなどするのも効果的です。

このような問題はすこしでも若いほうが改善されやすいので、できるだけ早めに専門家に相談されることをおすすめします。

Q. 猫と犬は仲良くできますか？（子犬と成ネコ）

お互いに追いかけたり追いかけられたりしているようであればよいのですが、子犬が一方的に追いかけているのであればすぐにやめさせましょう。

子犬のほうも猫をおいかけることを楽しい遊びと学習してしまいますし、ネコも犬が近づくとすぐに逃げ出すばかりで仲良くなることはできません。

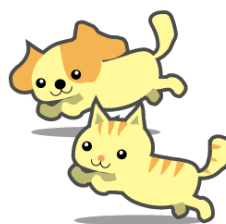
まずは子犬をおもちゃや散歩でしっかりつかれさせた後で会わせましょう。

子犬が猫をおいかけられないようにリードをつけるとよいでしょう。

その上で一緒に好物を与えたり、おもちゃなどで遊んだり、撫でるなどしてお互いの存在によいイメージをもたせるようにしましょう。

また部屋を完全に別々にする必要はありませんが、ネコがストレスなく生活できるように工夫が必要でしょう。特に寝る場所、排泄する場所は猫が安心できる場所であればなりません。ですからこれらのスペースは子犬が行けない場所や届かない場所に設けてあげるなどしてください。

社会科期と言われる最も慣れやすい時期は猫で生後2か月頃まで、犬は3か月頃までです。犬と猫の両方がこの社会化期から一緒に暮らせば多くの場合とても仲良くなれます。しかし両方が大人になって初めて出会った場合、また一方が大人の場合うまくいかない場合もあります。もちろんまったく仲良くなれないわけではありませんが、それなりの努力が必要ですし、時間もかかります。まずは前からいる猫にすれすがかからないような環境設定を行い、やんちゃな子犬をしっかり発散させ、その上で時間をかけて少しずつ仲良くできるよう工夫してください。



Q. 身体を触ったり足ふきをしたりすると手にかみついてきます。
パピークラスで体中を触る練習をするように言われましたが、手足を触ると噛みついてきます。どうすればうまくできるでしょうか？

A. 活発な子の場合、練習の前にしっかり発散させておく必要があります。
その上でまず1日の食事の1回分を使って体中触る練習をしましょう。
まずはハンドコングからフードを食べさせながら反対の手で体中をチェックします。
これに慣れたら次はフードを握りこみます。
この時、フードを握りこんだ手をむやみに動かすと、犬はそれにつられて動いてしまいますので、最初は口元などに固定しておく必要があります。
口や前足を使って握り込んだフードを食べようとするかもしれませんが、勝手に食べないようにしっかり握り込んでください。
その上で身体を触ってから「おりこう」と言って一瞬手のひらを開いてフードを与えすぐに握り込みます。次は別の部分を触って「おりこう」と言って、再び手のひらを開いてフードを与え、すぐに握り込みます。最初は体の各部位を1か所触るごとに褒めて、フードを与えます。慣れてきたら何か所か触ってから褒めて与えるようにしてもよいでしょう。身体をおとなしく触らせたならご褒美が出てくる仕組みです。これができるようになったらフードは手に持たず別の場所から出して与えるようにしましょう。
やがてフードがなくてもできるようにするためです。
足ふきも同様で慣れるまではクリームチーズを塗ったコングやガムなどを与えながら練習します。この際、咬んでから初めてコングやガムを出すのではなく、あらかじめ与えてそれに集中させてから足拭きををすることがポイントです。
慣れてくれば、コングやガムは足拭きが終わってからご褒美として与えるようにします。その際初めは、ご褒美は届かないけれど見える場所に置き、そちらに意識を向けながら練習します。さらに慣れてくれば見えない場所からご褒美を出すようにして、いずれは、ご褒美がなくてもできるようにしましょう。



Q. トイレに連れて行くと成功しますが、自分からトイレに行くことがありません。トイレとは別の場所でそそうしてしまいます。どのようにしつければいいのでしょうか？

A. 「トイレで排泄する」ことはできても「トイレまでいく」ということがトレーニングされていないようです。この場合は排泄しそうなタイミングで子犬をトイレに連れて行く際、トイレに自分で行くことを教える必要があります。つまり抱っこしてトイレに連れて行き、ペットシートの上に乗せるのではなく、まずトイレサークルの入り口付近で放し、自分でペットシートに向かわせます。自分からトイレサークルに入って排泄したら、褒めてご褒美をあげてください。これができたら、次はトイレサークルから少し離れた場所から「ピーピーしようね」「ワンツーワンツー」などと声をかけながらトイレに誘導し、排泄するように促します。成功すればさらに離れた場所や別の部屋からも自分でトイレに向かうようにトレーニングしましょう。

Q. サークルから出すとトイレを失敗します。現在サークルにトイレとベッドを入れてお留守番をさせています。サークルにいるときはトイレでしますが、サークルから出すと部屋のあちこちで排泄します。自分からサークルに入って排泄するようにできますか？

A. 考えられることは2つあります。1つはサークルに入りたくないと考えているかもしれないです。これは長い時間サークルに入れられてお留守番をしているために、自由になった時にはサークルに戻りたくないという心理が働くためです。

もう1つはサークル内で寝たり、遊んだりしているために、自分の場所を汚したくないという心理が働いている可能性もあります。

本来犬は、自分の寝る場所や食べる場所で排泄をしません。

サークルに閉じ込められているときには仕方なくそこで排泄しても、サークルから出ているときにはわざわざサークル内で排泄したくないのでしょう。

この場合、サークルの外にもトイレを置き、そこで排泄するようにトレーニングが必要です。教え方は基本通り、排泄のタイミングをしっかり観察し、排泄しそうな時にトイレに誘導して、成功したら褒めてご褒美を与えるようにします。



Q. ウンチを食べてしまいます。ウンチをしたらすぐに片づけるようにしているのですが、こちらがあせると余計に必死になり、取り上げる前に食べてしまうことがあります。どのようにしたらよいのでしょうか？

A. 飼い主さんが必死になってウンチを取り上げようとする、犬は飼い主さんがそんなにほしがるのだから、ウンチはとても価値の高いものだと思い、取られまいとしますますあわてて食べるようになります。

ウンチをし始めたらウンチを取り上げようとするのではなく、大好物を口元に差し出して与えます。さらに好物で気を引きながら、少し離れた場所に誘導して与えます。

そして好物を食べている間に、気づかれないようにウンチを片付けましょう。

これを繰り返し行くと、犬はウンチをしたら好物がもらえると学習します。

ウンチをしたらすぐに離れた場所へ呼び、そこで好物を与えるようにすると、ウンチをした後すぐにトイレから出て飼い主さんを探すようになり、ウンチを食べることは忘れてしまいます。

※補足

見ていない時にしてしまう場合には、食事の時間を変えて、見ているときにウンチをするように調節して、先ほどのトレーニングを行ってください。サークルで長時間留守番させるなど刺激の少ない環境にいる場合には治りにくいため、退屈のぎになるおもちゃを与えたり、運動や遊びなどを充分行ってください。また食事量が足りない時や栄養素の欠乏によっても起こる場合があります。念のため、獣医師に確認してもらいましょう。



Q. サークル内にトイレとベッドを両方置いてはいけないのでしょうか。

本を読むと「トイレはサークル内にベッドとともに設置する」というものと「犬はきれい好きなのでサークル内でトイレや食事をさせるのはかわいそう」というものがあります。一日に10時間お留守番をしてもらわなければならないため、今はサークル内に両方置いています。

A. 犬は自分の寝る場所や食べる場所を汚さないという習性を持っています。

そのためサークル内にベッドとトイレの両方がある場合、サークルに閉じ込められているときは仕方なくサークル内のトイレで排泄しても、サークルの外に出ると外で排泄しよう

とすることが多いのです。つまりトイレとベッドは分けてあげた方が犬には受け入れやすく、結果としてトイレも成功しやすくなります。

お留守番中に子犬を部屋で自由にさせるのは勇気のいることかもしれませんが、子犬に噛まれて困るものや危険なものを片付けて 1 室を自由にさせてあげて検討してみてください。特に電気製品のコード類や暖房器具、観葉植物や殺虫剤、薬品類などには注意してください。齧られては困るもので移動できないもの（家具など）にはビターアップルをかけます。完璧に片付けたつもりでも何か見つけていたずらするかもしれませんので、試しに休日などにその状態を過ごし、問題がないことを確認してからお留守番させましょう。またお留守番中に子犬が退屈しないようにしっかり遊んで疲れさせさらに退屈しのぎになる噛むおもちゃなどを置いてでかけましょう。

またたとえ 1 室で自由にできたとしても 1 日に 10 時間以上のお留守番は子犬にとって長すぎます。犬は本来群れで生活する動物です。

特に子犬の時には親兄弟とともに過ごし、触れ合う中で多くのことを学習します。

この大切な時期に 1 日の大半を刺激のないサークルで 1 人で過ごすことはストレスがたまるだけでなく、子犬が生涯生活するうえで必要なさまざまなことを学ぶ機会を失うことになります。このような犬はしばしば社会性が乏しく、ほかの犬や知らない人とうまくふれあうことができない成犬に成長してしまいます。

また知らない場所で過度に緊張するため外出を楽しめなかったり、物音などに過敏に反応して吠えたり、ストレスを感じたりします。

子犬の時期は犬が生涯楽しく幸せに暮らすために与えられた大切な準備期間です。

さまざまな刺激を与え、できるだけ多くの人や犬と楽しく過ごす機会を与えてあげてください。昼間みて下さる方がいればおねがいするか、ペットシッターや犬の幼稚園などを利用するという方法もあります。

できるだけ時間を作って社会化の機会を与えてあげてください。



Q. 家中のものを破壊します。スリッパを噛んだり、洗濯物をくわえて走り回ったり、ティッシュペーパーが散乱していたり、口にくわえているものを取り上げようとすると逃げ回ります。噛んではいけないものを教えることはできないものでしょうか？

A. 子犬は自分の周りにあるもの全てを口にして確認しようとします。子犬の目の前に噛めるものを置いて、噛まないよう言い聞かせるのは難しいと考えてください。噛まれたくないものは、子犬の届かない場所で管理することが一番の解決策です。

ただ移動させられないものもありますので、そのようなものにはビターアップルをかけておくようにします。そして最も大切なのは、毎日噛んでもよいものを与えることです。デンタルガムやコング、コットンロープなど安全な噛むものを与え、噛みたいという子犬の自然な欲求を満たしてあげてください。与えているけど噛まないというのであれば与えたことにはなりません。喜んで噛むものを探してあげてください。

またおもちゃなどを与える際には、初めはそれらを飲み込んでしまったりしないか観察しておいてください。さらにエネルギーの発散も大切です。お散歩や引っ張りっこ、ボール遊びなどで身体を動かし、疲れさせることによって、いたづらを減らすことができます。ポイントは3つ。1 毎日噛んでもよいものを与える。2 しっかり遊んでエネルギーを発散させる。3 壊されたくないものは届かない場所に置くこと。この3つを心がけてください。



Q. 早朝から鳴いて起こされます。夜は「ハウス」というと自分でクレートに入って寝ます。早朝 4 時になると吠え始めます。吠えた時にクレートから出してはいけなく聞いてはいますが、近所迷惑のため出してしまいます。どうしたらよいでしょうか？

A. 子犬が早朝クンクン鳴き始めたらおしっこのサインの可能性があります。あまり無視をするとクレートの中で排泄してしまうようになりますので、クンクン言い始めた時は、ガリガリしたり吠えだす前にクレートから出してトイレに誘導してください。

子犬は一日の中で何度も「寝て起きて排泄して食べて排泄して遊んで排泄して」を繰り返します。成長とともにこのサイクルは長くなり、私たち人間の生活とあってきますがそれまでは子犬が目を覚まして吠えだす前に、ドアを開けるようにしましょう。

あまりに早いと身体がもたないので、できるだけ朝起きる時間を遅くするように工夫しましょう。たとえば夜、あなたが眠る少し前に一度眠っている子犬を起こします。おもちゃなどでしっかり遊んで目を覚まさせます。そして、排泄を済ませてからクレートに入ると、子犬の睡眠サイクルをずらすことができます。またクレートに入れる際にフードを詰めたコングやビジーバディ、ガムなどを与えると、さらに眠る時間が遅くなるため、朝起きる時間をおくらせることができますでしょう。



Q. 家のチャイムに反応して吠えます。

怖いというのではなく、吠えながらお客さんを迎えに行き、お客さんがはいつてくると嬉しそうに挨拶していますが、マンションなので吠えるのは困ります。どうすればよいのでしょうか？

A. 玄関チャイムは大好きなお客さんが来る合図になってしまっているため、興奮して吠えてしまうのだと思います。いろいろな対処法がありますが、いずれも根気強くトレーニングを行う必要があります。例えば、クレートの中に好物を入れ、犬に取られないようにクレートのドアを閉めておきます。協力してくれる人に頼んでチャイムを鳴らしてもらい、チャイムが鳴ったら「ハウス」と言ってクレートのドアを開け、好物を食べさせます。これを何度も繰り返すと犬はチャイムが鳴ったらクレートに入るようになります。日頃からクレートの中に食べ物を入れて閉めておき、チャイムが鳴った時に「ハウス」の合図でクレートに入れてそれを食べさせます。入れておくものはガムやコングに詰めたおやつなどで時間のかかるものにすれば食べている間に、応対したりお客様を招き入れたりできるでしょう。クレートの中に食べ物があるとそれを取ろうとしてクレートを噛んだり、爪をかけたりの犬の場合は、食べ物はクレート近くで犬の届かない別の場所に置き、チャイムが鳴ったら「ハウス」の合図を出し犬がクレートに入ってから食べ物を入れるようにしましょう。



Q. うちの犬は飼い主よりも自分の方が偉いと思っているのでしょうか？

スリッパなど何でも口にするので取り上げるのですが、その際うなるようになりました。ブリーダーに相談すると上下関係をつけないといけないので、ひっくり返して押さえつけるよう言われそうしてきました。ところが今度は噛みつくようになり今ではさわれません。どのようにしつければよいですか？

A. 以前は飼い主にうなったり噛みつくのは犬が飼い主よりも偉いと思い、飼い主にさからっているのだと考えられていました。しかし、現在はむしろ飼い主が無理やり何かをすることで犬が恐怖や葛藤から攻撃的になる場合がほとんどであると考えられています。

犬の世界では一旦口にしたものはその犬のものです。自分のものを無理やり取り上げることに抵抗するのはごく当たり前のことなのです。また自分よりもはるかに大きい人間にひっくり返され、押さえつけられたら危険を感じるでしょう。自分の身に危険が迫った場合、動物は3つのFという行動にでると言われています。それは固まる(freeze)、逃げる(flight)、戦う(fight)のどれかです。逃げられる状況であれば逃げるのですが、追いつめられると窮鼠猫を噛むといわれるように、攻撃をします。これはねずみが猫よりも偉いと思っているからではなく、逃げることができないような場面では自分の身を守るための最後の手段だからです。飼い主に攻撃をする犬もほとんどがこれと同じで、追いつめられて自分の身を守るために攻撃をしかけるのです。無理やりひっくり返したり、押さえつけたりすることで犬は飼い主に攻撃されていると感じて、自分の身を守るために反撃にでているわけですから、最初からこのような状況を作るべきではありません。

犬に口にしておしくないものは届かない場所に片づける習慣をつけると同時に、犬が口にしても飼い主に喜んで渡してくれるように「ちょうだい」の練習をしましょう。



Q. 噛みついたとき怒ると吠え返してきます。

雑種の子犬を譲ってもらったのですが、私を自分より下にみているのか、一緒に遊んでいて興奮すると私に噛みついてきます。噛みついたらすぐにマズルを掴んで叱るようにしていますが、逆に吠え返してきます。噛み癖を子犬のうちにしつけないのですが、よきアドバイスをお願いします。

A. 本来子犬の時期は兄弟と一緒に過ごし、お互いに噛んだり、飛びついたり、走り回って遊ぶものです。子犬が飼い主を噛むのは下に見ているというのではなく、このような遊びの対象となる兄弟が側にいないために、飼い主に向けられているだけです。子犬同士はかなり荒っぽい遊びをするため、人間に対しても自然とそれに似た行動をとります。

したがって人間はそのような遊びの対象ではないと教えてあげる必要があります。

それはたとえ遊びであっても子犬の間に人の手を噛むことを繰り返していると、大人になっても人の手を噛みやすくなるからです。子犬と遊ぶときには手から距離のあるおもちゃなどを使って遊ぶようにし、人の手足を噛ませないようにしましょう。

遊んでいる時におもちゃでなく手足を噛んできた時には叱るのではなく、遊びを中断してどこかに行ってしまってください。部屋から出る時間は10～30秒ぐらいでよいです。

もどってきたら、おすわりなどの合図を出し、従ったら遊びを再開します。

子犬に人の手を噛むと楽しい遊びが終わってしまうと教えます。この方法を適切に行えばとても効果的な上、攻撃性の問題を悪化させることはありません。

また噛みついたらマズルを掴んで叱るという方法は今すぐにやめましょう。

この方法で叱り続けていると反抗心が強くなり、将来扱いにくい犬になってしまうでしょう。また飼い主との信頼関係も築けなくなると思います。

